

- ① 実施主体 福島県教育委員会  
 ② 派遣先・人員 派遣先…群馬県・新潟県  
 人員…学習活動班9名 } 計 20名  
 団体活動班11名 }

③ 期間

研修別 内容	期 日	場 所
事前研修	8月24日～25日	耶麻郡猪苗代町・国立磐梯青年の家
現地・事後研修	9月1日～9日	群馬県（太田市・上州富岡市月夜野町） 新潟県（上越市・新潟市・水原町）

④ 参加者の資格

下記要件を備えるもので、市町村教育委員会ならびに県教育庁教育事務所長から推せんをうけたもの。

- ア. 県内に居住し、農業・商業・工業等に従事する18才以上25才未満の未婚の青年男女。  
 イ. 青年会員・青年学級生・青年教室生および青年グループ員にして、将来郷土にあつて、研修の成果を積極的に生かしうると認められるもの。  
 ウ. 地域の信望あつく、研究心の強い青年であること。  
 エ. 健康状態が良好なもので、胸部および伝染性の疾患のないもの。  
 オ. 過去において、国内研修に参加していないもの。

⑤ 参加者の選考

県教育長は、市町村教育委員会ならびに教育事務所長から推せんされた者の中から選考し、研修生を決定する。その通知は、県教育長から教育事務所長ならびに市町村教育委員会教育長を通じて本人に通知する。

⑥ 研修内容

- ア 青年国内研修の意義  
 イ 研修現地の学習  
 ウ 研修主題の共通理解と各自研究テーマごとの発表と内容討議  
 ウ 福島県内青年団体活動の現況  
 オ 青年と学習活動  
 カ 青年団体活動とリーダーの役割  
 キ 現地視察と研修  
 （青年の生活実態・青年団体組織と活動状況）  
 ク 中小企業における従業員教育問題  
 ケ 農業経営の現代化  
 コ 社会教育施設関係  
 サ 学級・教室・グループ等活動状況  
 シ 研修内容の整理と研究発表

(3) 効果

青年団体・グループ等の組織・運営・活動や青年の学習活動などで当面する諸問題は各県とも共通しており、その解決のための実践活動事例の交換・討議や調査は、青年の視野をひろげるとともに今後活発な青年活動をとおして地域振興に貢献することが期待される。

6. 地域振興青年指導者セミナー

(1) 趣 旨

勤労青年が現代社会に適応し、地域振興の推進者として活動するため、地域におけるリーダーとしての基礎的研修をとおして広い視野と判断力・実践力を身につけた青年指導者の育成を目的とする。

(2) 期日・会場・参加者

- ①期 日 昭和47年12月6日～8日（2泊3日）  
 ②会 場 国立磐梯青年の家  
 ②参加者 県内に居住する18才～25才までの勤労青年男女で  
 ア 地域青年団体の役員および青年学級・青年教室・青年グループのリーダー、または今後リーダーとなるもの。  
 イ 国内研修終了者  
 ウ 勤労青少年のつどいに参加したもの

④講師・助言者

- |               |       |
|---------------|-------|
| 東北大学教育学部 教授   | 塚本哲人  |
| 福島県文化センター館長   | 平井 博  |
| 福島県青少年指導員     | 菊地賢太郎 |
| 前郡山市青年赤十字奉仕団長 | 遠藤和三  |
| 福島県教育庁社会教育課長  | 渡辺政三  |
| 福島県教育庁社会教育課員  |       |
| 福島県教育庁教育事務所員  |       |

⑤研修内容・方法

研修主題——地域振興のために青年の果たす役割は何か。

- ア 講義…地域づくりと青年活動について  
 とくに青年の権利と義務について  
 レクリエーション実技指導  
 イ 報告・事例発表  
 国内研修生報告  
 福島県青年海外派遣団員報告  
 地域類型別青年団体活動事例発表  
 ウ 分科会テーマ  
 「地域振興をはかるために青年団体活動をどう推進したらよいか」  
 「青年の生活を充実させるために余暇の活用をどうしたらよいか」  
 エ 分科会は、事例発表の内容を問題提起として話を深める。

(3) 効果

地域振興のにない手である青年が一堂に会し、宿泊研修を通して青年としての自覚を深め、友情の輪をひろげ、地域振興のために青年指導者としての役割を理解させることができた。

7. 全国青年学級生大会への参加

(1) 趣 旨

全国の青年学級生代表が一堂に会し、共同宿泊研修を通じて学習を深めるとともに友情を培う。今回はとくに磐梯山への集団登山を行なつて、規律・協同・連帯・奉仕の精神をみにつける。

(2) 主 催

国立磐梯青年の家 全国青年学級振興協議会  
 福島県教育委員会